**次世代科学技術チャレンジプログラム**

**令和5年度企画提案書**

・作成にあたっては、特に指定がない限り、適宜図表等を用いて構いません。

・この冒頭部分を含む青字は記入にあたっての補足事項です。応募時には青字をすべて削除してください。

・記入枠は、必要に応じて拡縮して構いません。

・文字化けを避けるため、MS明朝体、MSゴシック体、Century、Arielフォント等の使用を推奨します。

・ファイルサイズは10MBを上限とします。

・提出時のファイル名に実施機関名を含めてください。

・PDFファイルで提出する場合は、テキスト情報が埋め込まれているものとしてください。

【１】応募概要

|  |  |
| --- | --- |
| 企画名 |  |
| ふりがな |  |
| 実施機関名 |  |
| 応募型 | 小中型、高校型、小中高型のいずれかを記載してください |
| ふりがな |  |
| 実施責任者名（役職、氏名） | 応募者にあたる機関の長（例：大学であれば学長）名を記載してください。 |
| ふりがな |  |
| 実施組織名 |  |
| 所在地 | 〒　 |
| 連絡先 | TEL： E-Mail： |
| ふりがな |  |
| 実施主担当者名（役職、氏名） |  |
| 共同機関名 | （あれば記載してください） |
| 連携機関名 |  |
| 企画概要 | 項番【３】で記載した「企画内容」のエッセンスを３００字程度でまとめてください。採択時の公表資料等として使用しますので、高度な専門用語や略語をなるべく避け、平易な表現で記述してください。また、図表は使わないでください。 |

【２】応募機関について

設置目的、経緯、特色等について、概要がわかるように記述してください。**（1ページ以内）**

特に、教育活動等に関して特筆すべきことがあれば、記述してください。

**【３】企画内容**

# （１）企画を実施する背景・目的・目標

企画の目的と達成目標を、以下の観点を含めて記述してください。**（1ページ以内）**

・応募に至った経緯、背景となる問題意識

・本事業において「科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材の育成」を実施する目的、実現したい目標

# （２）育てたい人材像

企画における「育てたい人材像」について、その定義やイメージ、人材育成上の達成成果を記載してください。

また、育てたい資質・能力と取組がどのように結びついているのか、目標とする能力や資質の内容と取組概要との関係も併せて具体的に記述してください。

# ＜育てたい人材像の定義・イメージ＞　（1ページ以内）

※必要に応じて、育てたい人材像と育成プログラムの方針の関連が分かるように図などを用いて補足してください。

# ＜育てたい資質・能力＞ （2ページ以内）

以下①～④の項目について、下記の表に記載してください。

①本プログラムでの「育てたい人材像」に照らして目標とする具体的な育てたい能力や資質。

②「育てたい資質・能力」とは何が出来ることを指しているのか、その定義を可能な限り具体的に。

③上の②で記述した具体的な内容の目標水準（当該受講生が目標を達成したと言える水準）

④上の③で記述した目標水準に受講生を育成するためにどんな取組が必要・有効と考えているか、②の資質・能力の具体的内容と取組概要の対応の簡潔な記述。

※必要に応じて行・列を追加してください。

※下記の表については、エクセルやパワーポイント等で別途作成した表への差し替えや、別添として添付としても構いません。ただし項目は変更しないでください。

※小中高型について、小中学生と高校生で育てたい資質・能力の内容が異なる場合は、それぞれ別表で記載するか、表の中で違いがわかるように記載してください。

【第一段階の育成プログラム修了時】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ①育てたい能力・資質 | ②育てたい能力・資質の定義 | ③目標水準 | ④育成のための取組 |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

【第二段階の育成プログラム修了時】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ①育てたい能力・資質 | ②育てたい能力・資質の定義 | ③目標水準 | ④育成のための取組 |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

# （３）全体概要図

5年間にわたる取組の計画について、育成目標・実施内容・実施体制を含む最終の全体概要のイメージ図を作成してください。**（1ページ以内）**

# （４）5年間のロードマップと各年度における重点目標

実施期間5年間のロードマップと、各年度の重点目標（実現したい状況）を箇条書きで記述してください。

# ＜5年間のロードマップ＞ (1ページ以内)

※第一段階と第二段階等がわかるように記載してください。

※前年度の活動サイクルと異なる箇所や、支援期間5年間の中で特徴的な取組については色を変えるなど強調してください。

※下記の線表については、エクセルやパワーポイント等で別途作成した図に差し替えても構いません。ただし項目は変更しないでください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **初年度** | **２年度目** | **３年度目** | **４年度目** | **５年度目** |
| 事務局立ち上げ一次選抜第一段階（○名）一次選抜受講生募集メンター研修二次選抜受講生募集 | ●学会・コンテスト等参加第二段階（○名）二次選抜第二段階（○名）外部評価委員会第一段階（○名）● | 追跡調査（第１回） | ●学会・コンテスト等参加● | 外部評価委員会 |

# ＜実施年度ごとの重点目標＞ (1ページ以内)

|  |  |
| --- | --- |
| 初年度 | ＜実施・指導体制＞例）・教育委員会や博物館等の地域教育資源との連携の充実、発展　　・事務局立ち上げ、指導体制の構築と検証＜育成プログラムの開発＞例）・受講生募集、選抜基準、選抜方法の実施と検証　　・メンターへの研修、勉強会の実施と効果検証 |
| ２年度目 | ＜実施・指導体制＞例）・外部評価委員会の開催　　・指導体制の改善及び拡充＜育成プログラムの開発＞例）・受講生募集、選抜基準、選抜方法の改善　　・受講生が創出する成果の把握 |
| ３年度目 | ＜実施・指導体制＞＜育成プログラムの開発＞ |
| ４年度目 | ＜実施・指導体制＞＜育成プログラムの開発＞ |
| ５年度目 | ＜実施・指導体制＞例）・事業終了後を見据えた連携・指導体制の計画策定＜育成プログラムの開発＞例）・募集選抜、育成、評価等の各種ノウハウの形式知化（顕在化） |
| ６年度目以降 | ＜実施・指導体制＞＜育成プログラムの開発＞ |

# （５）育成プログラム詳細

○○

前項（４）の重点目標を踏まえた計画を、以下の観点を含めて具体的に記述してください。**（10ページ以内）**

自己財源等によって実施する部分や、連携する活動がある場合は、その旨が分かるように記述してください。

* 受講生の募集方法、受講者の意欲・能力を見出す具体的方法、カリキュラム・連携手法・指導法等、育成プラン開発、ならびに開発したプランに対する検証方法
* 第一段階、第二段階の育成プログラムにおける受講者育成の達成目標と検証方法
* 他機関への波及効果（社会的貢献）に関する計画

※２年度目以降の計画については、各項目について、前年度との同異、変更・充実点がわかりやすいように記述してください（重複する記述はできるだけ避けてください）。

# ＜全体＞

受講生数、各年度で受け入れる受講生数の計画

※小中高型については、小中学生と高校生それぞれの人数が分かるように記載してください。

※下記の表については、エクセルやパワーポイント等で別途作成したものに差し替えても構いません。

ただし項目は変更しないでください。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 初年度 | 2年度目 | 3年度目 | 4年度目 | 6年度目 | 累計 |
| 応募者数 | 小中：●名高　：●名 |  |  |  |  |  |
| 第一段階の受け入れ受講生数 |  |  |  |  |  |  |
| 第二段階の受け入れ受講生数 |  |  |  |  |  |  |

※小中型、高校型は第一段階で受け入れる受講生数が各年度少なくとも40名程度となるようにしてください。また、第二段階で受け入れる受講生数が各年度少なくとも10名程度（初年度に二次選抜を実施しない場合は5年間累計で50名程度）となるようにしてください。

※小中高型は5年間累計で受け入れる受講生数が、第一段階：少なくとも200名程度、第二段階：少なくとも100名程度となるようにしてください。

※小中高型については、受け入れる受講生の小中学生と高校生の割合が極端にならないように一次選抜を行ってください。また、長期支援プログラムであることを鑑み、第一段階受講生の半数以上を小中学生としてください。

# ◆初年度

※小中高型について、小中学生対象の取組と高校生対象の取組で実施内容等が異なる場合は、それぞれについて

記載をお願いします。

**＜受講生募集＞**

募集人数：

対象生徒：

対象地域：

周知方法：

その他：

**＜育成プログラム＞**

一次選抜：選抜時期、選抜基準（ルーブリック等の作成が望ましい）、選抜方法など

第一段階：実施時期、プログラム内容（講義内容、実施回数・頻度、実施場所、手法・ツール等を具体的に）

二次選抜：選抜時期、選抜基準（ルーブリック等の作成が望ましい）、選抜方法、探究テーマの設定方法など

第二段階：実施時期、プログラム内容、フォロー体制、コンテスト等の参加・受賞実績の把握方法など

※二次選抜や第二段階育成プログラム等を本年度内に予定しない場合は、その旨を記載してください。

※三次選抜、第三段階を実施する場合は、その内容等についても記載してください。

メンター：メンターに求める具体的な役割、研修・勉強会の計画など

受講生評価：目標水準に対する能力伸長度の達成度、受講生へのフィードバック計画など

その他：既に探究活動等を行っている受講生や特に意欲・能力の高い受講生に対する個に応じた支援・指導

取組のオンライン化など、遠方から参加する受講生のアクセシビリティへの配慮

倫理教育等の方針、実施方法

小中高型については、共学の工夫（学年段階及びプログラムサイクルの枠組みを越えた学び合い）

中学受験や高校受験に配慮した、柔軟な活動期間の設定　※特に小中高型

**＜実施体制＞**

実施機関の運営体制：事務局運営計画、サブコーディネータ・事務補助員の拡充計画など

連携機関との協力：連携機関の参画計画、外部評価委員会の開催、教育委員会との連携計画など

その他：GSCをⅡ期8年実施した実績のある機関の共同機関に対する支援体制

**＜その他＞**

各取組の検証の観点・指標・方法、追跡調査、開発された手法・ノウハウのとりまとめなど

支援期間終了後の自立的な取組の実施に向けた検討　等

# ◆２年度目

※2～5年度目については、前年度からの変更点（差分）を色つき文字や下線部で強調するなど、わかりやすく記載してください。（前年と同様の場合は「前年度からの変更点なし」とするなど、重複する記述はなるべく避けてください。）

**＜受講生募集＞**

**＜育成プログラム＞**

**＜実施体制＞**

**＜その他＞**

# ◆３年度目

**＜受講生募集＞**

**＜育成プログラム＞**

**＜実施体制＞**

**＜その他＞**

# ◆４年度目

**＜受講生募集＞**

**＜育成プログラム＞**

**＜実施体制＞**

**＜その他＞**

# ◆５年度目

**＜受講生募集＞**

**＜育成プログラム＞**

**＜実施体制＞**

**＜その他＞**

# （６）得られた成果の把握と普及・展開

企画実施で得られた成果の把握や普及計画について記述してください。**（2ページ以内）**

# ＜受講生が創出する成果の把握＞

・育成プログラムの成果検証の指標の一つとして、対外的な発表や科学コンテスト・ビジネスコンテスト等の目標件数を記載してください。目標数は5年間の累計を記載してください。

・項番1～4については、対象とする児童生徒の発達段階や育てたい人材像、取組の内容等を踏まえ、

目標数は0件でも構いません（ただし成果の把握には努めてください。）。

・項番5以降については、育てたい人材像に照応する適切な成果目標を応募機関が設定してください。

※下記の表については、エクセルやパワーポイント等で別途作成したものに差し替えても構いません。

ただし項目は変更しないでください。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項番 | 項目 | 目標数 | 備考欄（内訳・育てたい人材像との関係性等） |
| 1 | 研究発表件数 | 　　　　件 | ※国内外での学会発表、公開発表会、ワークショップ、シンポジウム等における研究発表など |
| 2 | 論文発表件数 | 　　　　件 | ※国内外の学術雑誌に発表する論文、学内紀要や複数の機関が関与した雑誌投稿など |
| 3 | ISEF予選参加 | 　　　　件 | ※日本学生科学賞、高校生科学技術チャレンジの日本国内予選等への参加数 |
| 4 | 科学オリンピック | 　　　　件 | ※物理、化学、生物等の日本国内予選等への参加数 |
| 5 | ※項番5以降は各応募機関が独自に目標を提案・設定してください | 　　　　件 | 例）・アントレプレナーコンテスト・ロボットコンテスト・ビジネスコンテスト・科学の甲子園、科学の甲子園ジュニア参加件数・民間企業との共同研究数　等 |
| 6 |  |  |  |
| 7 |  |  |  |

※必要に応じて行を追加してください

# ＜修了生の成果、キャリア、動向等の把握（追跡調査）＞

実施する部署、調査項目、対象者、方法、調査頻度等について計画を記載してください。

※小中高型で長期に亘って支援した受講生については、修了後を含めた長期の追跡調査を計画してください。

# ＜企画実施で得られたノウハウ等の社会への普及・展開＞

地域や社会への波及効果（社会的貢献）に関する計画を記載してください。

例：実施機関が育成プログラムについて学会等で発表し、成果やノウハウを後半に共有する

　　（実施機関が大学等の場合）地域の高校教員に対して、生徒の探究活動支援に係る研修会や相談会、交流会等を開催する

# （７）実施体制

機関・組織・人員の配置と関係を、図を用いて説明してください。**（1ページ以内）**

下記については、必ず記載してください。

・実施機関、連携機関（・共同機関）

・実施組織

※実施機関内で企画に参画する部署・センター、研究所等があれば明記してください。

・実施責任者、実施主担当者、担当者

・中核となる組織を構築するなど、企画を安定的･効果的に運営･実行していくため仕組み

# （８）企画実施期間終了後の継続

JSTからの支援終了後に、実施機関（・共同機関）において企画をどのように継続、展開していくか、その方向性、方法等（資金調達方法含む）について記述してください。**（1ページ以内）**

※主に以下の内容を含めてください。

・実施体制、企画内容等の方針

・資金計画

・連携機関等との協力体制

※過去にGSC、情報科学の達人に採択実績のある機関が高校型に応募する場合は、及びジュニアドクター育成塾に採択実績のある機関が小中型に応募する場合は、本企画終了後の自立継続について、ロードマップや資金計画を含めるなど、より具体的な計画を示してください。

※過去にGSCをⅡ期8年実施した機関が高校型に応募する場合は、共同機関が将来的に実施機関として新規応募することを含めた取組の継続に向けた、実施体制の整備やプログラム設計の計画についても記載してください。

**【４】過去にGSC（「情報科学の達人」育成官民協働プログラムを含む）およびジュニアドクター育成塾の企画を実施した機関の実績と本提案企画の関係**

以下の場合は、過去の取組と比較した本提案企画の新規性・発展性についてわかりやすく記述してください。**（2ページ以内）**

・過去にGSCもしくは「情報科学の達人」育成官民協働プログラムの企画を実施した実績がある機関が、本事業の高校型に応募する場合

・ジュニアドクター育成塾の企画を実施した実績がある機関が、本事業の小中型に応募する場合

※小中高型に応募する場合は、本表の作成は不要です。

|  |  |
| --- | --- |
| 実施した事業：GSC、情報科学の達人、ジュニアドクター育成塾採択年度　　：　　年度企画名　　　： | 令和5年度 本提案企画 |
| （項目例）・育てたい人材像・募集方法、対象とする児童生徒・選抜基準、選抜方法・第一段階の取組内容、分野・第二段階の探究活動内容・育成プログラムの期間・主体となる組織、運営体制　等※別途、過去の取組について具体的に記述した補足資料（パワーポイント等で10ページ以内）を提出してください。 | 左記の項目に合わせる形で、過去に実施した企画との違いや改善点について記載してください。また、過去に実施した企画にはない新たな取組等がある場合は、それがわかるように記載してください。 |

**【５】所要経費見込み**

# （１）初年度　（1ページ以内）

令和5年度の所要経費について、費目ごと、種別ごとに主な内訳・使途、および見込み額を、積算根拠（計算式）とともに、記述してください。概算で構いません。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 費目・種別 | 主な内訳・使途 | 予定合計金額（万円） |
| 直接経費 | ①物品費 | 設備備品費 | ※取得価額が20万円以上かつ使用可能期間が１年以上の設備備品、ソフトウェア（既製品）。理由書を添付すること。 |  |
| 消耗品費 |  |  |
| ②人件費･謝金 | 人件費 | ※雇用期間を通して専任となる場合以外は、エフォート率の設定による按分計上とすること。 |  |
| 謝金 |  |  |
| ③旅費 | 内国旅費 |  |  |
| 外国旅費 | ※外国からの招聘費用（海外の児童生徒は除外）を含む。 |  |
| ④その他 |  |  |
| 一般管理費（直接経費総額の10％以下） |  |
| 合計（小中型：1,000万円以下、高校型：3,000万円以下、小中高型：4,000万円以下）小中高型のみ、各年度の支援金額の上限を超えた金額を計上可能です。　　　　　　　ただし、年度あたり1,000万円の増を上限とします。また、5年間の累計金額が2億円を超えることはできません。 |  |
| 自己負担経費（本企画に使用するJST支援経費以外の自己負担部分） |  |  |
| 総合計 |  |

※上記の表について別途エクセル等で作成した表に差し替えても構いません。ただし、項目は上記の表と合わせてください。

# （２）2年度目以降　（1ページ以内）

2年度目以降の所要経費について、費目ごと、種別ごとに見込み額を、記述してください。金額は概算で構いません。

小中高型のみ、各年度の支援金額の上限を超えた金額を計上可能です。

ただし、年度あたり1,000万円の増を上限とします。また、5年間の累計金額が2億円を超えることはできません。　　　　　　　　　　　　　　　（単位：万円）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 費目・種別 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
| 直接経費 | ①物品費 | 設備備品費 |  |  |  |  |
| 消耗品費 |  |  |  |  |
| ②人件費･謝金 | 人件費 |  |  |  |  |
| 謝金 |  |  |  |  |
| ③旅費 | 内国旅費 |  |  |  |  |
| 外国旅費 |  |  |  |  |
| ④その他 |  |  |  |  |
| 一般管理費（直接経費総額の10％以下） |  |  |  |  |
| 合計 |  |  |  |  |
| 自己負担経費 |  |  |  |  |
| 総合計 |  |  |  |  |
| 前年度からの主な変更点 | 記載例）・サブコーディネータ通年雇用に伴う人件費増・第二段階開始に伴う研究資材費用増（消耗品、メンター謝金等）・受講生に貸与するためのPC、ルーター追加購入 | 記載例）・国際学会に○名派遣するための旅費増・事務補佐員の追加雇用 | 記載例）前年度からの変更点無し | 記載例）前年度からの変更点無し |

※本表は、各年度の予算内訳を確定させるものではなく、応募時の計画を確認するものです。

各年度の成果検証・フィードバック等により一部内容が変更となるなどして、実際の各年度の予算内訳が変更となることは問題ありません。

※上記の表について、別途エクセル等で作成した表に差し替えても構いません。ただし、項目は上記の表と合わせてください。